

山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	令和4年度第2回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日時	令和4年10月25日(火) 18:30~20:00		
場所	市役所3階大会議室		
出席者 (16人)	山陽小野田市連合女性会	井上幸子	(委員)
	山口県精神保健福祉士協会	植木亨	(委員)
	山陽小野田市民生児童委員協議会	榎崎八由美	(委員)
	山陽小野田市立山口東京理科大学	恵谷誠司	(委員)
	山陽小野田市健康増進計画推進委員会	小柳朋治	(委員)
	山陽小野田市立小学校校長会	関本幸司	(委員)
	山陽小野田市母子保健推進協議会	高木理代	(委員)
	山陽小野田市自治会連合会	千々松正俊	(委員)
	一般公募	中村千佳世	(委員)
	山口大学大学院医学系研究科	長谷亮佑	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢幸子	(副会長)
	山陽小野田歯科医師会	平木雄三郎	(委員)
	山口県看護協会小野田支部	本瀬明子	(委員)
	山陽小野田薬剤師会	松垣裕明	(委員)
	山口県理学療法士会	三戸洋	(委員)
	山陽小野田市社会福祉協議会	流田幸彦	(委員)
欠席者 (4名)	山陽小野田医師会	廣田勝弘	(会長)
	ヤクルト山陽山口本社	福濱栄士郎	(委員)
	山口県栄養士会	三井洋子	(委員)
	一般公募	吉本早苗	(委員)
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	清水恭子	
事務局	福祉部長	吉岡忠司	福祉部次長兼子育て支援課長 長井由美子
	福祉部次長兼健康増進課長	尾山貴子	主幹兼健康管理係長 藤本義忠
	課長補佐兼健康増進課係長	大海弘美	主査兼新型コロナ対策室長 林善行

	健康増進係長（食育） 加藤諭香江 健康増進係長（母子） 山本真由実 健康増進係長（成人） 伊藤比呂子
	1 福祉部長挨拶 2 委員・職員紹介 3 議事 山陽小野田市健康づくり推進協議会規則第3条2項により、副会長が職務を代理していただく (1) 令和3年度保健事業実績報告について (事務局から説明)
副 会 長	事務局の説明について、質問等がある方はいるか。
委 員	母子保健、健康などで具体的にどのような相談があったか。
事 務 局	母子に関する相談内容は、子供の成長発達、育児に関するものが多い。具体的には母乳に関すること、離乳食の進め方、健診事後の言葉の遅れや行動面等の発達で親が困っていることや不安に思っていることなどを相談するケースが多い。
委 員	そのような相談ケースが多いとき、お母さんへの教室等で資料として生かしているか。
事 務 局	母子に関しては、相談内容が多いことが分かれば、様々な月齢での教室を行っているので、PDCAサイクルを回す中で検討し、内容に加えるようにしている。
委 員	(保健事業実績)59ページの救急休日医療対策事業で、人数は掲載されているが、具体的にどんな疾病が多いか。
事 務 局	資料として持ち合わせていないのでお答えできない。
副 会 長	資料があれば説明できるということで、後日答えられるのか。
事 務 局	急患診療所事業は日誌で把握できると思うが、救急休日医療対策事業は医療機関で実施しているものであるため、内容の把握まではできていない。
委 員	数字でわかる所はよいが、数字だけではわからない部分もあるので、どんな疾病で受診しているかわかる資料を示していただいた方が見る側はわかりやすいと思う。
事 務 局	どこまで示せるかわからないが、できるだけ御意見に沿えるような資料を提示したい。
副 会 長	来年の宿題として、わかりやすい資料が提示できるように準備をお願いする。
委 員	新型コロナワクチン接種事業で、1回目・2回目の接種率より3回目の接種率が低い、最初の接種での後遺症が影響しているのか。
事 務 局	1・2回目及び3回目は高齢者の方の接種率が高いが、1・2回目の当初はコロナ感染症自体がわからないまま接種がかなり進んだ。3回目は現時点では70%以上は接種できている。3月末時点では、3回目がス

委員	<p>ターゲットしてまだ間もない時期であるため接種率が低いですが、令和4年度に入ってから徐々に接種が進んでおり、後遺症は影響していないと思われる。</p>
事務局	<p>地域医療対策事業について、小児科急患診療所が10月以降は宇部市での対応となり、お母さんが不安に思っている。宇部市までは遠いという意見や、救急で連絡しても下関市方面の小児科を紹介されるなどの事例もある。県や市がすすめているAIを活用したLINE相談などの利用をすすめ、お母さん方の不安の軽減や正しい情報の取得のため勧めているが、市ではそのあたりのフォローアップを考えているか。</p>
副会長	<p>小児科急患診療所は10月1日から宇部市との広域化対応とした。今まで山陽小野田市では日曜・休日のみの診療で、宇部市では毎日小児科急患の対応ができており、市民サービスの向上にはなっている。距離的な問題はあがるが、小児救急の全体を考える中で宇部市と広域化になることが市にとって有益である判断し、広域化を決定させていただいた。御理解をお願いしたい。</p>
委員	<p>母子保健推進員が実際に体験され、相談を受けられた中での質問であった。市民サービスの低下にならないようフォローができればという事務局の考えであるので、よろしくをお願いしたい。</p> <p>(2) 令和5年度保健事業について (地域職域連携推進事業) (事務局から説明)</p>
委員	<p>小学校なので、子どもがやっていることが大人の世界に対応できるか不明だが、学校では5月に体力テストをして、子どもの体力や全体的に何が劣っているかを把握し、1校1取組の活動を行っている。有帆小学校では柔軟性や筋力が不足していることから、教員に研修を行い、体育の授業前にリズムダンスを行っている。他にも姿勢が崩れていけば、週1回姿勢体操のDVDを全校で流している。同じ時間にみんなで行うやり方は一体感が生まれよいのではないか。</p>
委員	<p>職場というよりも職業的に腰痛症や肩こりに対応することが多い。健康経営を登録されていても、事業所の中でどのくらいの損失が出ているのかということがわからないと介入が難しいのではないかと感じている。実際に出ているデータで、プレゼンティーズム(出勤しているが生産性が低下している状態)がコスト損失の6割を占めていると言われている。そのトップ3が頸部痛、腰痛、睡眠不足である。企業の中でというよりは、介護現場や医療施設で行っていることとして、始業前や終業後に腰痛体操、ストレッチ体操などをするだけで、急性腰痛を予防できる。そのような関わり方であれば、休業損失を予防できるという意味では関わられていると思うが、一般の企業に対してどこまで関わられるか自分たちも勉強不足でわかりにくい部分でもある。</p>
委員	<p>社会福祉協議会では、健康管理について定期健診を全職員に行ってい</p>

委員	<p>る。健康づくりについては全くと言っていいほど行っていない状況。逆に様々な人とかかわるので、メンタルの面で支援をしていただけるようなことを紹介してもらいたい。健康づくりについては個人に任せている。</p> <p>精神保健福祉士として障害者施設で働いているが、職員の体調不安や介護パフォーマンスがどの程度落ちるか、はっきりしていない。何が原因で職場の損失が出ているのかがはっきり分かればいいのではないかと。また、職場の中で若いときは体を動かす機会があったが、年を取ると身体を気にはするが、運動をしなくなったり、若いころのように動けなくなったり、機会が減ったりするため、年をとってもできる運動があればよいと思う。</p>
副会長 事務局	<p>事務局で補足説明等はないか。</p> <p>メンタル面については、市ではこころのサポーター養成講座を実施している。また出前講座も行っているため、活用していただきたい。</p> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次健康増進計画中間評価について (事務局から説明)
副会長 事務局 委員	<p>事務局の説明に対して、挙手で賛成を求めるか。</p> <p>お願いします。</p> <p>令和6年度と決めてしまうと、今後、国・県が変更になった際に変更がきかなくなるため、令和6年度以降でよいのではないかと。</p>
副会長	<p>「令和4年度」から「令和6年度以降」での提案だが、ご賛同の方は挙手をお願いしたい。(全員挙手)</p> <p>全員のご賛同が得られました。よろしく申し上げます。</p> <p>発言のなかった委員より一言お願いしたい。</p>
委員	<p>いろいろな市町で関わらせていただいているが、山陽小野田市の特徴は健康づくりをスマイルエイジングとして市を挙げて取り組んでいることが大きい。健康づくりを第一のテーマにする市はなかなかない。今後さらに健康づくりをしっかりと進めていけたらと思う。すすめていく中で、今日の資料の評価項目の中で、県や宇部市との比較などもされると山陽小野田市がよいのか悪いのかがさらにわかる。がん検診の受診率もコロナ禍でも受診率を上げている市もある。そういう部分を他市と比較すると見えてくることもある。テーマをしぼって資料を作成し、この場でディスカッションできたらよいと思う。</p>
副会長	<p>他市と比較することで市を知ることができる大事な視点をいただいた。最後にオブザーバーの御意見や御助言をいただきたい。</p>
オブザーバー	<p>委員の言われた通り、山陽小野田市では健康づくりを長年地道に取り組んでおられ、イベントだけではなく、日々の取組の中で住民に根付いていけるようないろいろな仕掛けを工夫しながら取り組んでおられる。健</p>

	<p>康づくりはどこの健康福祉センターでも課題になる分野だが、SOS 健康フェスタなど、キャッチーなフレーズもあり、どこに行っても話題に上がる取組である。評価の報告もあったが、なかなか効果がすぐに表れない取組を地道にやっていかななくてはならない中で、委員の皆さんのお力添えをいただいているのだろうと感じられた。</p> <p>地域職域連携事業については、職域と地域の保健はどのように連携できるか非常に難しいテーマであるが、宇部健康福祉センターとしてもがんばって取り組んでいきたいと思っている。産業医や保健師の配置が義務付けられていない中小の事業所において、専門職のいる市とつながっていけると、見えない世代の課題や原因などの把握ができ、健康課題への実際の取組など専門職が支援できる部分がある。健康福祉センターとしても健康づくりの支援をしていきたいと考えているので、引き続きよろしくお願いしたい。</p> <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none">・スマイルエイジング強化月間について（事務局から説明）・SOS健康フェスタについて（健康増進計画推進委員会から説明） <p>健康増進課長あいさつの後、閉会した。</p>
--	---